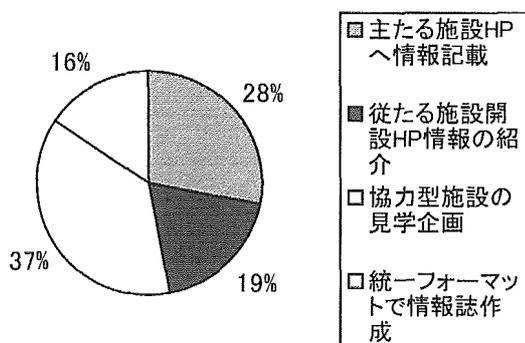


* 具体的方法（回答の多い順に列挙）

- ・ 協力型施設の指導医来院の上各持ち時間内で施設の説明をしていただき、その後ブースを設けて関心を持った研修歯科医と個別面談 : 14 施設
- ・ 協力型施設の説明ブースを設け直接面談の上説明を受ける : 5 施設
- ・ 全ての従たる施設の詳細記載の冊子個人配布 : 4 施設
- ・ 全協力型施設情報ファイル作成&自由閲覧 : 5 施設
- ・ 希望研修歯科医への個別見学仲介 : 1 施設
- ・ 研修歯科医説明会席上臨床研修プログラム責任者より詳細の説明 : 1 施設

<その他の方法・・・説明会実施との重複多数>

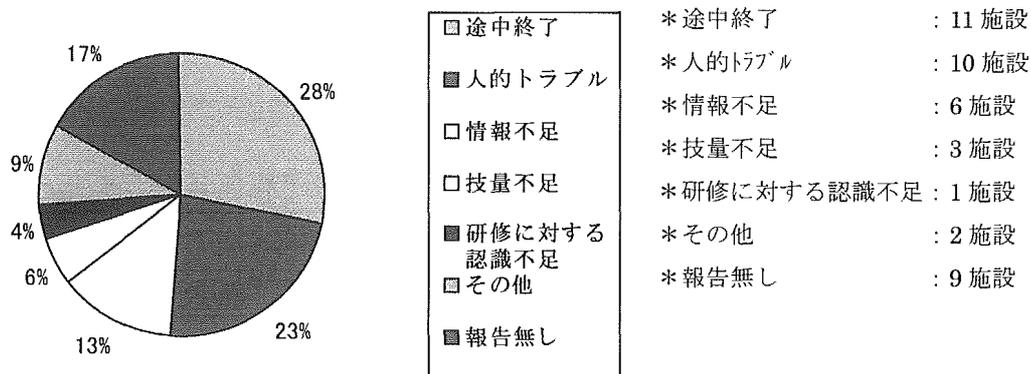


- * 主たる施設へのHPへ情報記載 : 9 施設
(リンクページ設定施設含む)
- * 従たる施設開設HP情報の紹介 : 6 施設
- * 協力型施設の見学&企画 : 11 施設
- * 統一フォーマットで情報誌作成 : 5 施設
- * 特に情報提供は行わない : 2 施設

9. 平成18年度に協力型施設へ提供する予定の研修歯科医についての情報の種類を列挙してください。（回答数の多いものから列挙）

- * 歯科研修医のプロフィール（研修に臨む姿勢や希望を記述させた文章を含む） : 21 施設
- * 管理型施設における研修評価（卒前臨床実習項目、学士試験成績等含む） : 12 施設
- * 情報提供は無く直接面接 : 3 施設
- * 研修歯科医全名簿（主となる診療科記載） : 1 施設
- * 歯科医師免許証及び保険医登録票 : 1 施設

10. 平成 17 年度までに研修歯科医と従たる施設間で発生した問題点を列挙してください。



< 具体的内容 >

* 途中終了・人的トラブル例

- ・ 協力型施設の指導の厳しさに耐えられず途中終了した。(うつ等病気報告含む)
- ・ 指導歯科医の急死
- ・ 研修途中での研修施設への引き抜き
- ・ 双方よりクーム(行きたくない、受入れられないと)の申し出
- ・ 研修開始直後研修にならないと管理型施設へ研修歯科医より報告
- ・ 協力型施設指導医との喧嘩

* 情報不足

- ・ 従たる施設の事前情報と実際の状況に違い
- ・ 従たる施設の情報提供に格差
- ・ 説明会に全ての施設が参加できない

* 技量不足

- ・ 研修医の施術ミスにより信用を失うと研修中止要請発生
- ・ 研修医の知識不足

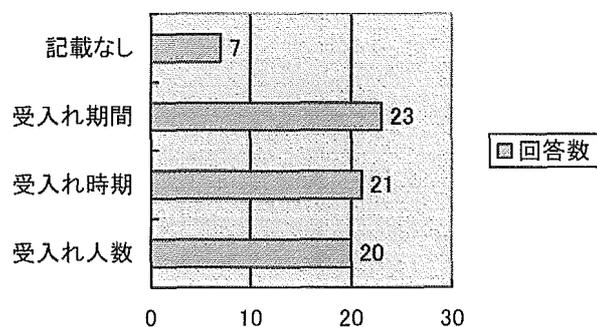
* 研修に対する指導側の認識不足

- ・ 指導歯科医不在時の対応のずれ
- ・ 給料不払い

* その他

- ・ マッチング後研修に赴くまでの準備期間が無い

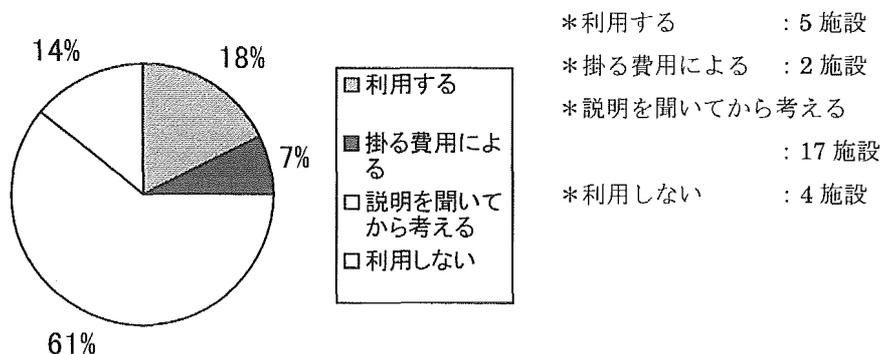
11. 平成 18 年度の管理型施設と協力型施設間ですでに取り決めた項目について、平成 18 年 1 月末現在の状況でご回答ください。(複数回答可)



並行申請を行っている協力型施設（複数の管理型施設と連携）に関してはこれらの項目の取り決めが重要ですが、具体的にどのような行なったか、または行う予定かをご記入ください。(回答数の多い順に列挙)

- ・ 施設申請に関する説明会において、当院のプログラム内容の提示 : 4 施設
- ・ 基本的に協力型施設の希望配慮 : 4 施設
- ・ 厚労省による協力型施設承認後研修管理委員会及び院外マッチングにて決定 : 2 施設
- ・ 協力型施設との密なコミュニケーション : 2 施設
- ・ 協力型施設での受入れ可能数（指導医*2）を超えぬよう周知 : 2 施設
- ・ 管理型施設の事情説明の上一部には人数増加、期間延長を依頼 : 1 施設
- ・ 協力型施設への希望調査（アンケートなど） : 1 施設

12. 歯科マッチングに類似した方式による研修歯科医と協力型施設間で希望順位付けを行う群内マッチングを利用させるかについてお答えください。



13.12 で「利用しない」または「説明を聞いてから考える」と回答された方に質問します。
回答の判断基準についてお答えください。(回答数の多い順に列挙)

- | | | |
|---|------------------|----------|
| ① | メリットが不明 | : 7 施設 |
| ② | 協力型施設が少ない | : 6 施設 |
| ③ | 研修医数が少ない | : 5 施設 |
| ④ | 利用にかかる費用を出費したくない | : 5 施設 |
| ⑤ | 従来のご組み合わせ方法で問題ない | : 3 施設 |
| ⑥ | 研修歯科医数が確定していないため | : 3 施設 |
| ⑦ | 独自の方法で行う | : 2 施設 |
| ⑧ | その他少数意見 | : 各 1 施設 |
- ・ 複合型臨床研修を行う場合群内マッチング[®] 順位決定の為の見学、面接時間の確保が曖昧
 - ・ 患者の信用が第一の為受入れ前に面談をしたい希望が強い
 - ・ 協力型施設からの研修医選択は行わない
 - ・ 趣旨が不明

14. その他、協力型施設と研修歯科医の組み合わせに関し、自由にご記入ください。

- ・ 全てが満足する方法の実現は難しい (3 件)
- ・ 研修歯科医と協力型施設がお互いを十分理解し、それぞれを選択したいという意見があり、マッチング[®] の様な方法を導入することでこの問題が改善されると期待する。(2 件)
- ・ 今後の展開の予想がつかず不具合を見極めてから群内マッチング[®] の価値判断をしたい (2 件)
- ・ 平成 17 年度は施設数が上回リスムーズに行ったが今回は研修医が多く不安。
- ・ 協力型施設が少ない為ひとつの協力型施設を複数の管理型施設と組み合わせる必要を感じるので群内マッチング[®] はよい方法と考える
- ・ マッチング[®] への双方の理解・協力がえられるか不安
- ・ 準備不足で不十分な結果を招いた
- ・ 卒前の臨床研修による事前選別が必要
- ・ 研修医・施設長の面接が重要と考える
- ・ 協力型施設のシステム構築に 5 年必要

平成17年度厚生労働科学研究費補助金
厚生労働科学特別研究事業

外国におけるマッチングプログラムの調査に関する研究

分担研究者 石井 拓男

1. 各国の日本人の研修状況について

海外における日本人の歯科医師の研修状況について報告する。

アメリカ

- 免許と留学

アメリカで日本人歯科医が活動するには州の医師免許の取得が必要。

試験は学科試験と実技を伴う臨床試験がある。免許の受験資格は州により異なり、外国人が受験できる州は限られる。

外国人の受験を認めていない州では、認定の歯学部に入塾後、免許受験することが必要。診療を行う臨床留学の場合は、州の医師免許の取得が必要。また、開業するには移民査証（永住権）が必要。

カナダ

- 免許

歯科医師免許は州ごとに資格審査、試験を行ない、その地域で通用する免許証を発行。試験は学科試験と各種臨床試験。

- 留学

日本の歯科医師資格を所持している場合は、留学中の免許受験も可能。

イギリス

- 免許

外国人歯科医師が就労するには、歯科医師、医師免許試験の合格と登録（registration）が必要。

- 留学

研究留学の場合は試験不要で最長2年間の滞在が可能。就労を伴う臨床研修の場合は、現地免許試験に合格し、歯科医師登録することが必要。

2. 海外でのマッチングの利用状況

海外でのマッチングの利用状況は次の通りである。

1) 医師のマッチングを実施している国

米国（レジデンシー、専門医）、カナダ、英国

2) その他のマッチングの適用例

- 米国：獣医

- カナダ：新聞記者の就職先

3. 米国で研修するためには

米国の臨床研修に参加する為にはECFMG（米国でのレジデンシー・プログラムへの参加能力を評価する機関）が発行する認定書を取得しなければならない。なお、取得には4つの試験をクリアする必要がある。

1) USMLE ステップ1

基礎医学（約350問、医学部在学中で基礎医学修了者に受験資格）

2) USMLE ステップ2

臨床医学（約400問、医学部6年生以上に受験資格）

※ USMLE のステップ1、2はどちらから受験してもかまわない。ただし、合格後の資格有効期間は7年間となっている。

3) ECFMGのCSA (Clinical Skills Assessment)

問診スキル査定(米国フィラデルフィアのECFMG本部で、11人の模擬患者に対し各15分の間診試験)
※資格の有効期間は3年

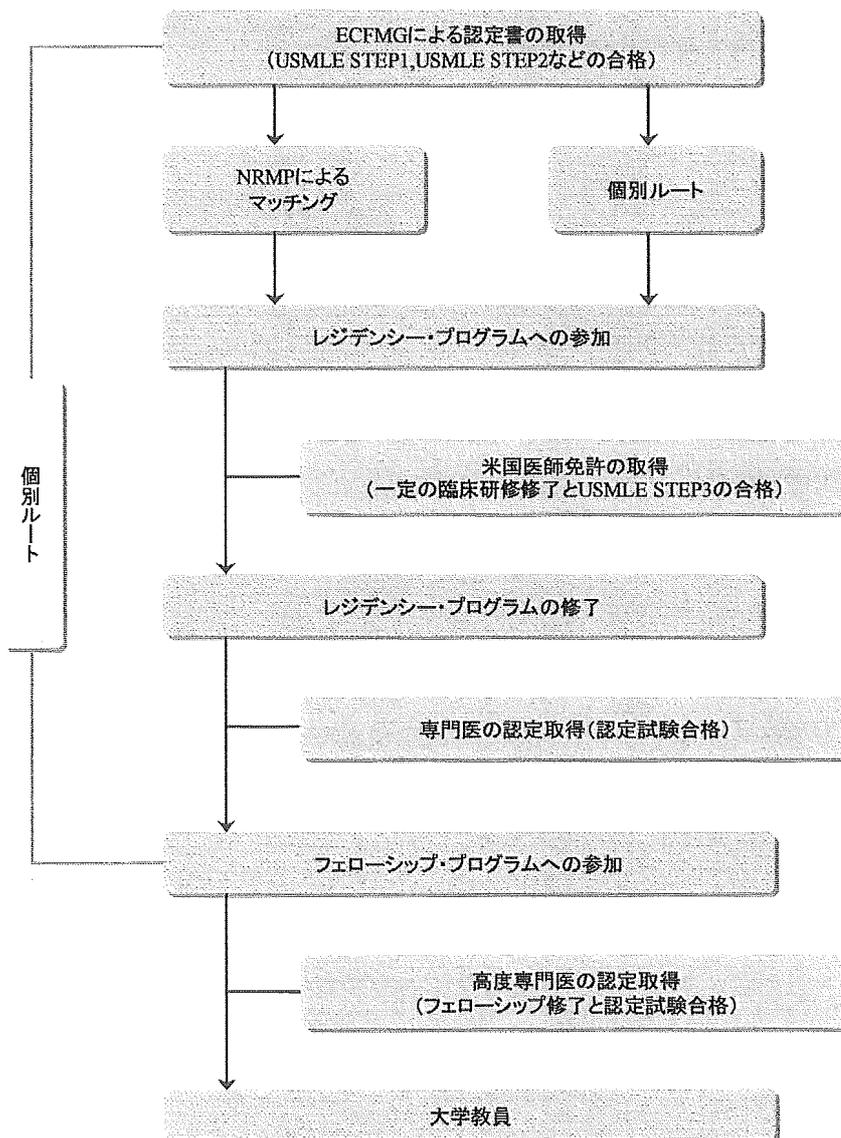
4) TOEFL

※スコアの有効期間は2年

4. 米国の臨床研修先決定手順

米国で臨床研修先を決定するために下図で示す手順で実施している。まず、ECFMG の認定を取得し、面接、NRMP でのマッチングを実施する。

米国における研修の基本的な流れ



※ECFMG(米国でのレジデンス・プログラムへの参加能力を評価する機関)

5. 米国で医師の研修先を決定するための手順を記述する。

1) プログラムの選択 (6月)

米国には、FREIDA と呼ばれるオンラインのプログラム情報 (日本では、厚生労働省が運営している DREIS がそれにあたる) があり、6月頃に、研修を希望するプログラムをリストアップする。希望のプログラムと面接するためには、推薦状 (所属医局の教授や出向関連病院の部長、医学部の学長に依頼する) が必要となるので、その作成を依頼する。また、プログラムごとの制約 (外国人医師を希望しないプログラム、ビザ発給の特徴、応募に際して米国での一定の臨床研修が課される) を確認する。

2) 面接を受けるための資料作成 (7月)

米国では、ERAS という仕組みがあり、そこに履歴書や、成績表、推薦状などをアップすると各プログラムに送付するというサービスがある。まずに、登録を行い必要な情報の記入、登録を実施する。ERAS (Electronic Residency Application Service) とは、インターネットを用いて希望施設すべてに一括で送付するシステムである。従来は、全てのプログラムに、Letter of recommendation (LOR)、履歴書、Personal Statement (PS)、Dean's letter (DL)、大学成績表などの願書を揃え、それぞれに送らなければならなかったことを考えると、ERAS を利用するとこれらの書類を、ERAS だけに送ればよいことになり、かなり書類仕事は楽になる。

3) Personal Statement の作成 (6~8月)

各自のメッセージを記述する Personal Statement を作成する。Personal Statement と履歴書と推薦状を作成いただく先生や、Dean (就職担当の教授) に送付して、それぞれにレターを記載する。

4) ERAS への登録 (9月)

ERAS の受付が開始すると面接を受けたいプログラムを ERAS に登録する。ERAS に登録するには、費用がかかるため、多く面接を受けるとそれだけ費用がかかる。

5) 面接 (10月~2月)

多くは11月から1月中旬がメインで面接が行われる。全米で実施されるため、旅費などもかさむ様である。「インタビューに慣れてくるので1月に自分の希望プログラムをもってするのが良い」といわれており、「到着順にスコアの良いものから」といった傾向があるので、9月上旬に多くのプログラムに応募することが重要である。面接の前日から、会食をもうけることが多く、そこには、そのプログラムで研修を行っているレジデントが出席するので、そのプログラムの状況を聞くことが可能である。ただし、その会食から、面接が始まっており、採点が行われている様である。

6) NRMP (米国のマッチング協議会) への希望順位表の提出 (1月中旬~2月下旬)

1月中旬から下旬にかけて、各プログラムが NRMP へ希望順位表を行う。米国では、本当にいきたいプログラムに対して、1月中旬にセカンドルックと呼ばれる印象付けをするための再訪問を実施する。マッチングアルゴリズムは日本と米国は同じため、単純に行きたいプログラムから順に記載する。たとえ10番目にもってきたとしても、それが先方のプログラムで上位にランキングされていれば必ずマッチする。また妥協せず行きたくないプログラムは決してランキングしないことである。

7) マッチングの発表とスクランブル (3月中旬)

マッチデーの3日前に、NRMP からマッチ成功・不成功のメールが届く。マッチデーには、マッチ成功者は、どのプログラムにマッチしたかわかる。アンマッチの場合は、スクランブルと呼ばれ期間に研修先を決定する。マッチデーの2日前に、空席のあるプログラムが公表される。アンマッチ者はその空席情報をみて、自ら (又は、Dean) が空席に対してアプローチをかける。早いもの順で即決される場合がある。

6. NRMP のマッチ結果

2002 年の NRMP のマッチ結果は次の通りである。

参加者のタイプ	PGY-1 マッチ率 (%)
U. S. Senior	94.1
Canadian Students	77.8
U. S. Graduates	45.0
Osteopaths	70.9
U. S. citizen foreign graduates	53.9
Non-U. S. foreign graduates	38.5

2002 年の U. S. Seniors の希望順位におけるマッチ率は次の通りである。

順位	マッチ率 (%)
1 位	61.6
2 位	15.6
3 位	9.1
4 位	4.9
>4 位	8.8
アンマッチ	5.9

参考文献：

- [1] First Aid for the MATCH Insider 3rd Edition advice from students and residency directors, McGraw-Hill, 2001
- [2] 米国インタビュー・マッチングへの挑戦、KokuTAI 2005、6、医学教育出版
- [3] <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2002/07/s0709-1d.html>
- [4] <http://www.e-resident.jp/lifeplan/kaigai.php>
- [5] <http://ww.hosp.pref.okinawa.jp/unihawaii/opinion/strategy.html>

平成17年度厚生労働科学研究費補助金
厚生労働科学特別研究事業

臨床研修群内マッチングシステムの運用方法に関する研究

分担研究者 出口 眞二

臨床研修群内マッチングシステムの運用方法について

1. 歯科マッチングと群内マッチングとの差異

群内マッチングと歯科マッチングの違いは次の通りである。

	歯科マッチング	群内マッチング
(1) マッチ率について	歯科マッチではアンマッチ が許される	群内マッチでは全員がマッチする必要がある
(2) 所属する施設の数について	歯科マッチでは、参加者は 1 つの管理型にのみ所属している。	群内マッチでは、複数の協力型施設で研修を実施することが前提となっている。
(3) 施設の定員	通常複数人の研修歯科医と複数人の指導医がいる。	群内マッチングは、1（指導医）対 1（研修歯科医）の対応となるため、何か問題が発生しても逃げ道が無い。

2. 群内マッチングシステム

今回構築するシステムは、群内マッチングシステムは、歯科システムとの違いを考慮したシステムとする。

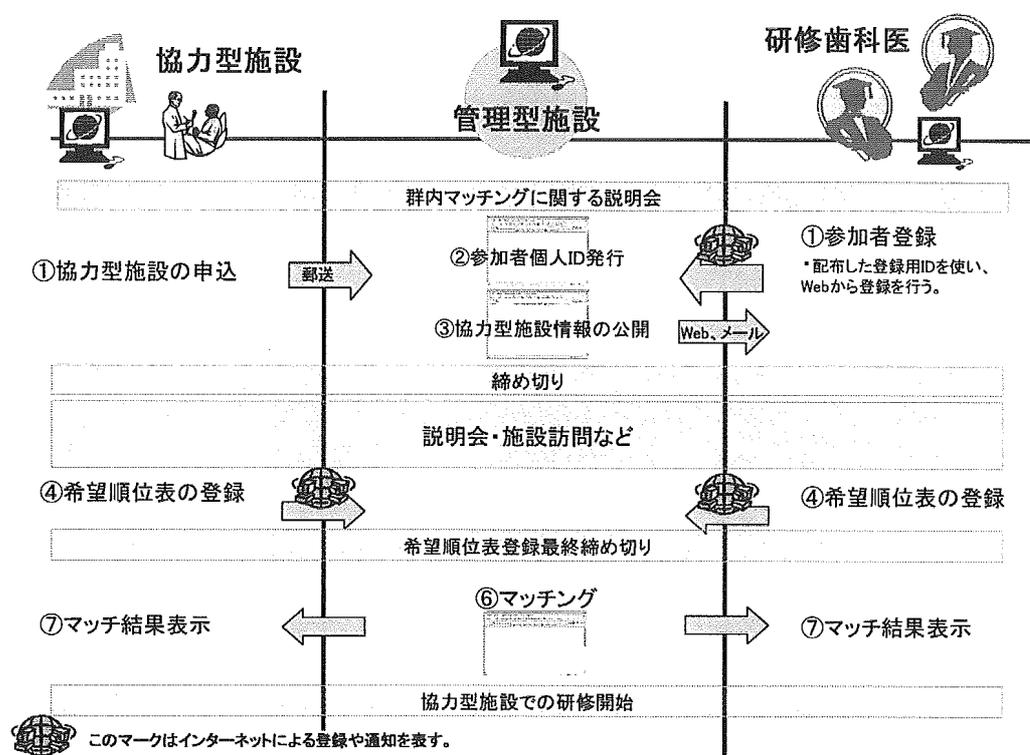
以下に考慮すべき点を 5 つ示す。

- ① 全員マッチング の仕組みを導入
- ② 複数施設 へのマッチングの考慮
- ③ 全研修歯科医と全協力型施設が参加
- ④ 自らの意志で決定させる。納得した施設で研修。
- ⑤ 群内マッチングシステムで提供はしないが、運用として、施設説明会 や情報提供（施設情報、研修歯科医情報）により情報を相互に理解する機会を提供する。

3. 群内マッチングシステムの考え方

- 1) 群内マッチングシステムは、「医師マッチングシステム」や「歯科マッチングシステム」で実績のあるアルゴリズムとシステムを基本に、群内マッチング特有の機能を追加・変更して、構築します。マッチングアルゴリズム、処理機能、画面インタフェース、データベースなどへ追加・変更を予定する。
- 2) システムを動作させるハードウェアは、歯科医師臨床研修マッチング協議会が保持する「歯科マッチングシステム」の設備の利用を前提とする。
- 3) 開発費は、科研費の活用と参加する管理型施設で分担する予定である。運用費は、参加する群の数と参加人数で決定する予定である。（開発費・運用費はまだ未決定。）

4. 群内マッチングの流れ



5. 群内マッチングのメリット

- 1) 厚生労働科学特別研究事業により、各管理型施設が共通に利用できるシステムを構築する。
05年度は、標準のプログラムの検討・作成、群内マッチング特有のアルゴリズムの検討、マッチングシステムの運用方法などの検討を実施予定である。
06年度は、日本歯科大学附属病院をモデルとして試験的な利用を実施する。

- 2) 施設及び研修歯科医のそれぞれの希望で行き先を決定する。

- 3) 管理型施設が割り振るわけではなく、それぞれの希望で順位を設定することができるため、希望に添った施設や人を選ぶ事ができる。

施設：全ての研修歯科医について順位を決める。

研修歯科医：全ての施設に対して順位を決める。

- 4) アンマッチ者への考慮を行う。
アンマッチ者がでないようにする。

- 5) 公平性である。
全ての施設と全ての研修歯科医が希望順位を登録し、双方の希望順位を基に行き先を決定。マッチングのアルゴリズムは、医師マッチング及び歯科マッチングで実績のあるアルゴリズムを利用。

2005年 医師マッチング	第1位希望でのマッチ率	72.5%
	第3位希望までにマッチした率	95%
2005年 歯科マッチング	第1位希望でのマッチ率	70.7%
	第3位希望までにマッチした率	91.4%

- 6) 管理型研修施設の責任が少ない。
管理型の病院が施設を押しつけるのではなく、各施設・研修歯科医の責任にて選択するので、管理型施設の責任が少なくなり、研修歯科医への指導がしやすくなる。
- 7) 研修中断が減る可能性が大である。
従来は、管理型が割り当てることが多かったため、希望に合わない施設での研修となることがあり、研修途中で中断することもあったが、それぞれの希望で研修先が決定するため、研修中断が減る可能性が高い。
- 8) 協力型研修施設の質が向上する。
研修内容が公開されるので、研修内容及び施設の情報を比較する事が可能となる。そのため、各協力型施設は、より良い研修歯科医を得るために切磋琢磨することになり協力型研修施設の質が向上する様になる。
- 9) 複数施設へのマッチングに対応する。
複数施設へのマッチングに対応。
- 10) 施設及び研修歯科医の作業が減少する。
インターネットを利用して研修先を決定するため、管理型病院に、希望順位を郵送し集計し組み合わせ決定するなどの作業が無くなる。
- 11) 情報提供手段が増大する。
施設情報をインターネットで提供するので、施設説明会との組み合わせで研修歯科医と施設との理解度が高まる。WEB やメールを利用して施設と研修歯科医が情報をやりとりする事が可能となり、利便性が向上する（特に遠隔地の施設）。
- 12) 質の良い研修歯科医と質の良い協力型施設が集まる。
群内マッチングによって、研修歯科医が協力型施設を選択することが可能であることがわかれば、参加者が歯科マッチングで施設を選ぶときの希望順位が高くなる可能性がある。
また、協力型の施設も自らの意志で研修歯科医を選ぶ事ができるのであれば、協力型施設として参加する意欲が高まる。
- 13) 次のステップを見据えたマッチングである。
マッチングというイベントを実施することで研修後（就職・研究など）を見据えるため、研修歯科医の研修先決定意欲が高まる。甘えが少なくなる。
- 14) 人的資源の交流が促進する。
多くの研修歯科医の中から選ぶことができるので、広い範囲の人から選ぶ事ができる。
協力型施設でも研修歯科医を選択することができるため、将来を見通した人材をより広く多く確保できる。
大学に戻ってもつながりを継続する事ができる。

6. 群内マッチングシステム構築の前提

群内マッチングシステムは構築の前提は次の通りである。

2006年度実施予定の複数（3個）のプログラムに対応したシステムを構築。モデル病院で試験運用を実施。プログラムの種別・分類については、モデル病院である日本歯科大学附属病院を利用する。研修歯科医と協力型病院、運用者の作業手順は、基本的に、「歯科マッチング」と同じ手順である。ユーザインタフェース及び機能は、群内マッチング向けに追加及び変更、削除。

7. 研修歯科医への説明（例：日本歯科大学附属病院の場合）

【施設の選び方】

- 1) 多くの施設の情報入手すること。
- 2) 群内マッチングの施設ページ
- 3) 施設の説明会
- 4) 施設の Web ページ
- 5) あらかじめアポイントをとり、可能な限りの施設を訪問して、施設を確認すること。
- 6) 将来などを考え自らの希望を書き出しておく。

- ①何を学びたいのか
- ②職種
- ③地域
- ④将来の歯科医師像
- ⑤給与
- ⑥待遇
- ⑦職員の数
- ⑧設備

質問事項を明確にしておくこと。何処を確認するかチェックポイントを明確にすること。（後で比較することになるので、できるだけ決めておくこと）

- 7) 絶対に譲れない部分と、譲歩できるところを明確にしておくこと。

- 8) 集めた施設の情報により、順位を定めること。

- ①行きたい順位
- ②行きたくない順位
- ③どちらでも良い施設
- ④行きたくない（行けない）場所
- ⑤行きたい場所

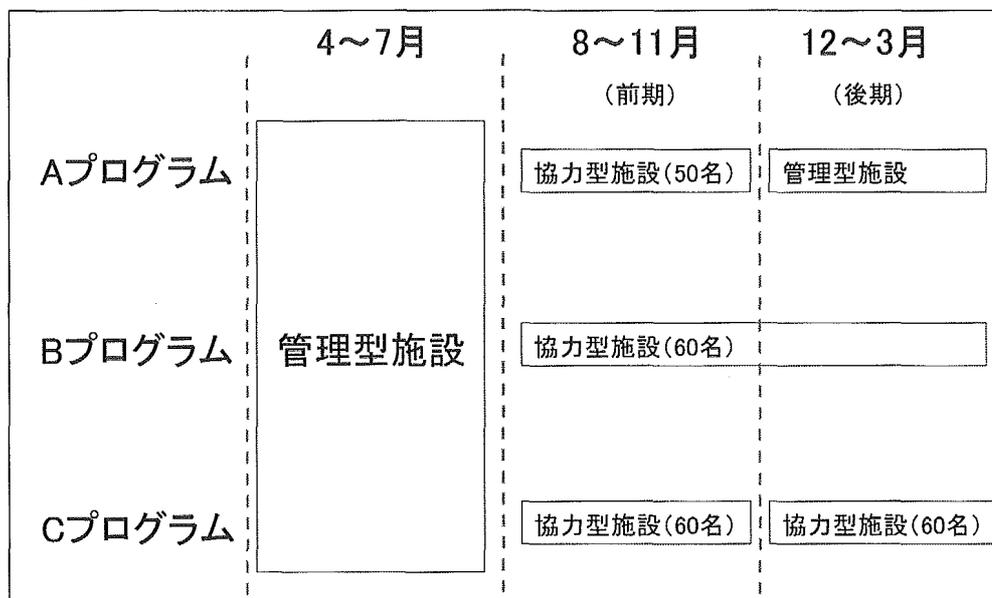
8. 協力型臨床研修施設・希望順位表の入カールール（例：日本歯科大学附属病院の場合）

- (1) 希望順位登録表に関しては、全協力型研修施設（110施設）、全研修歯科医が登録されている。（画面上では、全協力型研修施設、全研修歯科医の名前がすでに登録されているため、希望順位の入力済んでいると勘違いしないように。必ず希望順位に従って研修歯科医を移動すること。）
- (2) 協力型臨床研修施設は、希望する研修歯科医を上位へ移動させる。
- (3) 協力型臨床研修施設は、希望しない研修歯科医を下位へ移動させる。
- (4) 管理型長期プログラム（Aプログラム）、協力型長期プログラム（Bプログラム）、協力型複数プログラム（Cプログラム）の研修歯科医すべてを協力型臨床研修施設の希望する順位に基づいて希望順位表に登録する。
- (5) 協力型施設の定員は、マッチングで決定した全ての人数を受け入れられるだけの数にする必要あり。並行申請している協力型の施設は、全ての施設が全員マッチングした場合を想定した人数にしてください。
- (6) 群内マッチングシステムの導入にあたり、各協力型臨床研修施設から研修歯科医の受入れ人数の確約を行うことが必要である。
- (7) 協力型臨床研修施設は、管理型研修施設研修管理委員会の規約に則り、群内マッチングに参加するための参加同意書を提出する。

モデル病院の場合（例）

モデル病院の研修例

特長：・ 3つのプログラム(A, B, C), ・ 各プログラムは4ヶ月単位,
・ 最初の3ヶ月は管理型で研修

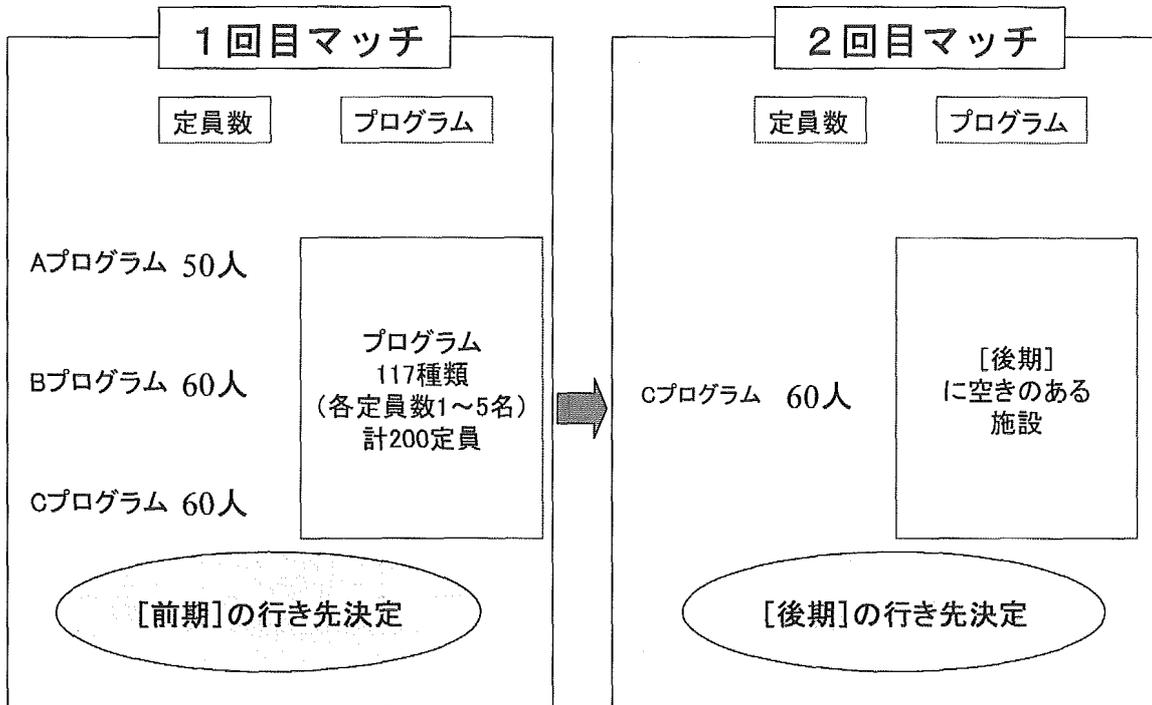


(ア)モデル病院の方式に対する前提

モデル病院の方式に対する前提条件は次の通りである。

- ・ Cプログラムは2つの研修先があるために、システム内で2度マッチングを実施。
- ・ Cプログラムの研修医は8月～11月（以降前期と呼ぶ）と、12月～3月（以降後期と呼ぶ）で、できる限り違う施設で研修を行う。そのため、1度目のマッチングで決定した施設及び研修歯科医は、最下位に移動させる。施設数、ROLによっては、同じ施設にマッチングする可能性有り。
- ・ 施設は、定員内（同時研修可能な定員）であれば、どのような組み合わせも受け入る。
- ・ 施設は前期・後期とも同じ定員。
- ・ 施設はAプログラム、Bプログラム及びCプログラムのどのプログラムの研修歯科医も受け入れるものとする。

(イ) 群内マッチングの方式



※ なお、1回目に後期、2回目に前期を決定しても良いが、選択できる施設及び施設数が異なる。

9. 群内マッチングを行うにあたり前提条件

- ・ システムのハードウェアは、歯科マッチング協議会の保持する設備を利用する。
- ・ 運用は、歯科マッチング協議会（又は歯科医療研修振興財団）が実施する。
- ・ 利用開始時期は、06年4月1日からとする。

■ 1回目のマッチング

- ・ 定員数は研修歯科医より多い事が望ましい。
- ・ 全プログラムの希望順位を登録する（同一順位無し）

■ 2回目のマッチング

- ・ 全プログラムの希望順位を登録する（同一順位無し）
- ・ 1回目で決定した施設を最下位に移動させる。

問題点

- ・ Cプログラムは、前期・後期で同じ施設にマッチする可能性がある。
- ・ 1回目のマッチ結果を前期又は後期のどちらに割り振るかで、対象施設数が異なる。

10. システムの考え方

基本のコンセプトは以下の通りである。

- ・ マッチングアルゴリズムは、米国、カナダ、日本のマッチングシステムで利用されている Gale-Shapley の stable マッチングアルゴリズム を利用する。
- ・ 研修歯科医及び施設は、利用登録及び希望順位表 (ROL) の登録は、1 度だけ行う (登録期間中は何度でも変更できます。システム内部では 2 度以上のマッチングを実施するが、研修歯科医及び施設にはわからない。)
- ・ 研修歯科医は希望順位表に 全施設 を登録する。(システムにて入力を支援する。)
- ・ 施設は希望順位表に 全研修歯科医 を登録する。(システムにて入力を支援する。)
- ・ なお、全員をマッチさせる ためには、定員数は、参加者数より多いことが必要である。
- ・ 協力型の定員は、マッチングで決定した 全ての人数を受け入れられるだけの数 に設定する必要がある。他の群と掛け持ちしている協力型の施設は、全ての施設が全員マッチングした場合を想定して人数を設定しなければならない。

2006年度（平成18年度）
日本歯科大学附属病院歯科医師臨床研修・群内マッチング
参加同意書

日本歯科大学附属病院
臨床研修管理委員会 殿

当施設は、日本歯科大学附属病院臨床研修管理委員会の定める規約を理解し、遵守すること、及び日本歯科大学附属病院群内マッチングの結果に従い、研修歯科医の採用を行うことを約束し、日本歯科大学附属病院群内マッチングプログラムに参加することを同意します。

年 月 日

(参加申込 協力型臨床研修施設)

所在地

施設名

代表者

印

なお、群内マッチング参加に際し、日本歯科大学附属病院からの研修歯科医の受入れを以下の人数で登録します。

研修歯科医受入れ人数 名

モデル病院（日本歯科大学附属病院）・群内マッチング規約

1. 協力型臨床研修施設は、日本歯科大学附属病院臨床研修管理委員会の定める規約を理解し、遵守するものとする。
2. 協力型臨床研修施設は、群内マッチングへの参加同意書を臨床研修管理委員会に提出を行うものとする。
3. 協力型臨床研修施設は、群内マッチングの結果に従い、研修歯科医を受け入れることとする。
4. 協力型臨床研修施設の研修歯科医の定員は、群内マッチングで決定した研修歯科医を受け入れられるだけの数に設定する。他の群（管理型臨床研修施設）と並行申請（掛け持ち）している協力型臨床研修施設は、全ての群（管理型臨床研修施設）でマッチングが成立した場合を想定して日本歯科大学附属病院から受け入れる定員を確約することとする。
5. 協力型臨床研修施設は、管理型長期プログラム（Aプログラム）、協力型長期プログラム（Bプログラム）、及び協力型複数プログラム（Cプログラム）のどのプログラムの研修歯科医も受け入れるものとする。
6. 協力型臨床研修施設は、定員内（同時研修可能な定員）であれば、どのようなプログラムの組み合わせも受け入れるものとする。
7. 協力型臨床研修施設は、前期・後期とも同じ定員で研修歯科医の受け入れを行うものとする。
8. 協力型臨床研修施設は、フリーメールでないメールアドレスを用意する。
9. 協力型臨床研修施設は、Webからプログラム情報や希望順位表の登録を行う。
10. 協力型臨床研修施設は、群内マッチング等に関わる諸事務手続き費用を一部負担するものとする。
11. 協力型臨床研修施設は、群内マッチング終了後に個別の事情が生じた場合、その調整は管理型臨床施設に一任するものとする。